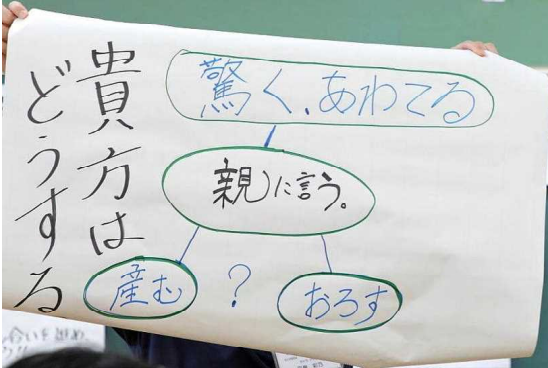


# 成長・貢献・感謝

羽地中学校  
学校だより151号  
R1. 12. 17



他グループのディスカッションでは、にげる(男)、施設に預ける、おろしてほしくない(男)、喜ぶ、などがありました。

## もし、いま子どもができ 親になると考えたとき、自分はどうしますか

名桜大学の助産学専攻科の大学生達とA先生、3年生が性教育の授業を展開しました。

①お腹の中の赤ちゃんの成長発達を形式で学びました。

②次に、グループになって妊婦ジャケットを順番に装着し、妊婦になった気持ちになっていろいろの動作を行い、重さや動きづらさを体験しました。

③そして、もし、いま子どもができて親になると考えたとき、自分はどうか、ディスカッションしました。様々な考えが出たので、全体の前で発表してもらい、考えを共有しました。自分の進路や相手の進路、育児のことなど、深く考えていました。



8ヶ月ぐらいの赤ちゃんです

## 学習の振り返り



皆の考えをまとめる



●妊婦ジャケットが想像以上に重たかった。動きづらかった。親のありがたみがわかった。沖縄では十代で子どもを産む人が沢山いると聞いていたので、私は、経済的に安定してから産みたいと思います。

●インターネットに頼らず、大人の人に相談することがわかった。

●子どもを産むと言うことは、大変なことだとわかった。赤ちゃんがお腹の中にいる疑似体験



自分の考えを付箋紙にまとめる

もできたので、いい学習だった。

●助産師のやる事がわかってとても良かったです。自分も立派な助産師になれるよう頑張ります。この授業は私にとって、とても為になりました。ありがとうございます。

●グループについてくれた先生が優しく教えてくれた。自分がもし妊娠したらどうしたら良いのかをしっかりと考えられた。皆もこういう風に考えているのが分かった。

●日本で性教育が進んでいない理由が知りたいです。

●授業は分かりやすかったです。

●女の人のお腹に赤ちゃんがいたら、男の人は女の人に何をしたら良いのか、しっかりと知ることができた。

●妊娠した時の生活がどれだけ大変かわかりました。もし、自分に子どもができたら、相手に子どもができた時にどうするか考えられた。

●妊婦ジャケットを着けると腰が痛くなり、靴下をはいたりすると腰が痛くなりました、あちこちが痛くなりました。